

全仏の理事会、評議員会

合わせて十三議案を審議



開かれた理事会

機構改革特別委員会の伊東康雄委員より説明、字句を一部修整して承認。

◎議案第三号「理事異動の承認を求め
る件」
原案通り承認

◎議案第四号「ルンビニー復興のため
の協力内容について意見を求める件」
担当局長・部長より説明。ネパールの
国情を十分に調査して、趣旨が生かせる
ようにする、等の意見が出された後、ル
ンビニー復興日本仏教徒委員会の中間報
告を基本的に承認。

◎議案第五号「負担金未納加盟団体の
取り扱い規定(案)」について意見を求め
る件」
担当局長・部長より説明、賛成だが運
用は慎重に、等の意見が出された。

◎報告事項「第二十八回全日本仏教徒
会議実施計画の報告について」
担当局長より報告された。

* * *

つづいて、午後一時三十分から理事会
が開かれた。最初に日野事務総長挨拶、
議長に鱒淵理事長、議事録署名委員に貝
山宣泰師、板垣隆寛師を選んで議事に入
った。

◎議案第一号「会長・副会長推戴に関
する細則(案)」の承認を求める件」
担当局長より説明、字句を一部修正の
上、承認。

◎議案第二号「ルンビニー復興のため
の協力内容について承認を求める件」
担当局長・部長より説明、ルンビニー
復興日本仏教徒委員会の中間報告を、承
認。

◎議案第三号「負担金未納加盟団体の
取り扱い規定(案)」の承認を求める件」
担当局長・部長より説明、字句を一部
修正の上、承認。

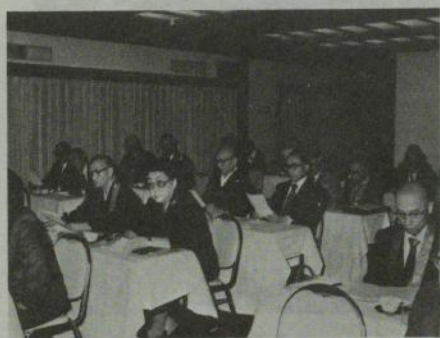
◎議案第四号「税務委員会規定(案)」
の承認を求める件」
担当局長より説明、字句を一部修正の
上、承認。

◎議案第五号「常務理事異動の承認を
求める件」
原案通り承認。

◎議案第六号「靖国神社公式参拝並び
に、戦没者追悼の日」制定の自民党々議
決定に対する対応策の件」
担当局長・部長より説明、公式参拝に
ついては、靖国神社法案に対する全仏の
従来の見解を基本的姿勢として堅持した
上で、この問題についての声明文(案)
を作り、次回の常務理事会へはかること
になった。

* * *

◎議案第七号「真言宗国分寺派管長・
西口公教師よりの『新券発行について』
聖徳太子の肖像がなくなることに反対す
る」という申し入れの取り扱い方の件」
担当局長・部長より説明。大蔵省、自
民党幹事長あてに「肖像がなくなること
に反対する」という要望書を出すことにな
った。



同じ会場で評議員会

◎議案第八号「世界連邦日本仏教徒協
議会並びに臨済宗東福寺派の加盟の承認
を求める件」
担当局長・部長より説明。臨済宗東福
寺派の加盟については承認。世界連邦日
本仏教徒協議会については、結論を出す
にいたらなかった。

◎報告事項「第二十八回全日本仏教徒
会議実施計画の報告について」
担当部長より報告された。

都道府県仏の活動状況

組織部でアンケート

全仏・組織部では、このたび「加盟都道府県仏活動状況」のアンケート調査を行った。これまでに15通の回答が得られたので、その一端を紹介しよう。

アンケートはまず、税務問題について「税務講習会の有・無」を問うている。実施しているのは、岡山、埼玉、和歌山、群馬、神奈川、愛知、岐阜の七仏教会だが、県仏でやっていなくても、それぞれの支部で行っていると答えているところも多かった。

次に、「都道府県仏内に於いて海外との交流のある寺院があればお知らせ下さい」という質問に対して、群馬がスリランカ仏教会と、埼玉が韓国ソウル市仏教信徒会と、また岡山では、岡山県日中仏教文化交流会が発足したこと等が記されている。

さらに「都道府県仏の活動状況」については、島根、栃木、千葉、長野の四仏教会が「停滞している」と答えている。その他の仏教会は「普通である」。「停滞している」理由については、「予算上の問題。各支部の活動を、中心としている」(徳島)、「予算がなく、専任の事務職員が設置できないため」(栃木)、「会長、理事長が変わり、理事長が御遠忌で多忙なため」(千葉)等があげられている。

また、「同和問題に取組む機関の有・無」では、岡山県仏教会だけが「有」とし、岡山県部落解放運動連合会」の名をあげている。さらに「都道府県仏内での現在及び過去に於ける差別事例の有・

無」という質問に対しては、全ての仏教会が「無」と答えるか、何も回答していない。

最後に、「全日本仏教徒大会に対する御意見」では、「第二十七回大会に参加しての感じであるが、立派に運営されており、会場も申し分なく、関係者の御協力と御苦労に、敬服感謝申上げる次第です」(和歌山)等の意見がある一方で、「昨年の大会は、大会というに値しない。二回目の宗派(本山)順番で、始めるべきである」(埼玉)、「マンネリ化した一つのセレモニーに過ぎないと思います。決議されたことが実行された確率は殆んどないような現実では」(千葉)等の意見もあった。

韓国仏教の訪日団

全仏を訪れ懇談

去る十月六日、韓国仏教宗団協議会訪日代表团(李鍾五団長)の一行十五人が全仏事務総局を訪れた(うち五人は大韓仏教婦人会の代表)。全仏から日野事務総長以下の各局長が出迎え、懇談した。

韓国側から、このような会合をしばしば持つて、両国仏教会の交流、日本へ仏教を研究するため留学生を送りたい、両国の仏教行事へ、互いに招請するようになりたい、等の要望があり、韓国仏教宗団協議会の鄭草宇会長からの、全仏会長あてメッセージが手渡された。

上信堂上川金太郎商店

- 墓地用線香製造販売
- 各種墓地用品販売
- 各種薫香販売

本店 東京都豊島区巢鴨4-8-7
TEL (03) 917-1734
東北出張所 山形市山寺(堀川商店内)
TEL (0236) 95-2742

バンングラディシユの仏教徒

愛知学院大教授
前田恵学



ドゥ教徒二二%、キリスト教徒一%と言われる。仏教徒の数は統計の表面に出ないほどの比率であるが、しかし実数はおよそ五十万人と言われ、決して少ない数ではない。同じくイスラム教国であるインドネシアの仏教徒、およそ百万人(推定)と共に、われわれはそのゆくえに無関心であつてはならないであらう。

一九四七年のインドからの分離独立に際し、バンングラディシユの地にあつ

バンングラディシユは、戦前は英領インドの一部であつた。イスラム教徒が多く、戦後一九四七年に東パキスタンとなつて、ヒンドウ教のインドと分れたのである。さらに一九七一年三月にパキスタンから分れて独立を宣言し、バンングラディシユとなつたことはよく知られている。一九七四年二月の、イスラム教国首脳会議の決定により、イスラム教国のメンバーになつてゐる。ただそれより前、一九七二年十二月発効の憲法では、非(脱)宗教主義をうたつてゐるので、イスラム教を国教としてゐる国よりは、宗教に対する政治的統制がやや寛やかであるように見られる。

バンングラディシユは総人口七千九百万人(一九七二年)と推定されているがそのうちイスラム教徒は七七%、ヒン



ずらりと並んだバンングラディシユの僧侶たち

た仏教徒のかなりの数が西ベンガル・トリプラ・アッサムや近隣諸地域に移動した。しかし大部分の仏教徒は移動することができず、そのまま残つて現在はバンングラディシユ南部のチッタゴン・チッタゴン丘陵地帯・コミラ・ノアカリとバカルガンジ(バトゥアカリ)の諸地域に住し、主として農耕の生活を営んでいる。中でもチッタゴンとチッタゴン丘陵地帯に多く、バンングラディシユの仏教徒の八〇%は、この両地域に住している。

バンングラディシユでは宗教的対立が強くイスラム教とヒンドウ教の間には摩擦が大きい。仏教徒は少数民族であつて、きわめて力が弱い。他の教徒とは通婚せず、民族の誇りを守り抜こうと必死である。自衛本能的にイスラム教とは対立関係を作らず、むしろ協調しようとしているが、実際は弱少数民族の悲哀をなめてゐる。

チッタゴン丘陵地帯の、ビルマ国境に近い地域には鋭い対立があつて、前から立ち入り禁止となつてゐるところがある。最近も新聞に仏教徒が大量殺戮されたと報ぜられた事実がある(五六年三月一七日付中外日報参照)。

三

チッタゴンのベンガル仏教徒は、バルアー(Baru)と呼ばれ、かれらは自分の名の中にBaruaの姓を有する(細かく見れば、南・北の二地域に分かれ多少の相違がある)。チッタゴン丘陵地帯の仏教徒はチャクマー(Chakma)と呼ばれる。コミラやノアカリでは、シンハ(Sinha)とかシンハールバルアーと呼ばれる仏教徒がいる。

このほかアラカン系ビルマ人の仏教徒がいて、マラムマ(Maramma)と言われる。このマラムマ仏教徒は、バカルガンジやまたラムー、コックス・バザールのようなチッタゴンに連なる他の丘陵地帯に住している。

バンングラディシユの仏教徒は大きく分けると、インド系とビルマ系に分けることができるわけである。ビルマ系はいま言うアラカン人であるが、かれらはビルマのアラカン地方(中心はAkyab)から来たものでビルマ語を話す。しかしアラカン人は本来のビルマ族ではなく、古く中インド・マガダ方面から移住した人々の子孫であるといふのが、ベンガル仏教徒の信念である。かれらがビルマからベンガルに移住したのは、一五世紀に遡る。歴史が古いだけに所有している土地も比較的広いようである。

これに対して、バルアーやチャクマーは、インド系仏教徒の主力を形成するが、もともとベンガルに住む仏教徒である。ベンガル仏教徒は政治的変動

の影響を受けることが多く、またガンジス河のデルタ地帯で農耕に従事し、風水害に悩まされることも多い。チャクマーは丘陵山岳地帯に住して、生活には恵まれていない。

四

筆者は、一九七八年の年末から翌年初にかけて、カルカット・ベンガル仏教会のダルマパーラ師とカルカット国立サンスクリット大学助教授S・チョウドリ博士の三人で、チッタゴンとその周辺地帯の仏教寺院、チャクマー仏教徒の住するチッタゴン丘陵地帯のランガマティー、コミラ近郊のシンハ族の農村寺院、さらに主都ダッカの仏教寺院を見て回って、この地域の仏教寺院や仏教徒の生活を、つぶさに触れる機会をもった。またS・チョウドリ博士は、日本学術振興会の招聘で来日し一九八〇年五月から十カ月にわたって名古屋に滞在した。その間、筆者の手許にある集取資料を加えて現代バングラディッシュの仏教をまとめる仕事をした。チョウドリ博士の英文原稿を二人で読み合わせたのである。いずれ出版の機会があるであろう。

五

私の印象ではバングラディッシュの仏教はきわめて純粋な上座仏教である。スリランカの村落寺院の仏教よりも、さらに混り気が少ないように思われる。どうしてそのように純粋な上座仏教が行われるにいたったのであろうか。



バングラディッシュの街頭風景

バングラディッシュには実は原始仏教以来の仏教ゆかりの故地をふくんでいる。釈尊が一度は足跡を残されたはずの仏教中国の東の端が、バングラディッシュにかかっている。その後バングラディッシュには北部から中南部にかけて広く密教が栄え、その遺跡がきわめて多い。女莫もこの地域を訪れて、記録を残している。

十二、三世紀、イスラムの侵入によって、インドの仏教は亡びたと言われている。バングラディッシュでも破壊の跡は著しい。しかしインドの周辺地域には逃げのびた仏教徒があった。バングラディッシュにもその末裔と見られる在家の密教僧が、今から五十―六十年前までは、なお存在していたという。かれらは日常、平服を着用し、家庭生活

を営んでいた。求められた時には、僧衣に着替えて供養を勤め、終ればまた元の姿にかえった。用いたところの経典はタントラであるが、土着の言語が混って、かなり独特のものとなっていた。

しかし今日、タントラ仏教の生きた名残りを見出すことは容易ではない。密教と小乗の生きた混淆を見出す努力は、失望に終る可能性がきわめてつよい。生きているのは上座仏教である。このような上座仏教への転向が行われたのは、ほんの十九世紀半ば頃のことである。

六

一八五六年、アラカンの僧王(サンガラージャ)・サラメータ師は、チッタゴンへ来て、密教僧たちに、上座仏教への転向を求めた。黄衣の出家生活こそが、仏教本来の姿であると説得した。僧王を招きまた助けたのは、ラードウ長老であるが、なぜか自分は僧王の下で受戒しなかった。しかし多くの人は僧王に従い、それに従わない少数の人たちは、長老派(すなわちMahathera Nikaya)を形成し、多数の人々は僧王派(Sangharaja Nikaya)に帰したのである。しかし長老派の僧も今では黄衣を着用するようになり、外見上は僧王派と区別できなくなっている。何度も両派の統一がはかられたが、実現できなかった。ただ在家信者の間ではこの二派をはっきり区別するような意識

は、必ずしも持たれていない。

長老派の寺院は、五十五カ寺ほどで僧侶の数は、百人を下るまいと言われる。これに対し僧王派は、各地の寺院を合わせると五百八十カ寺ほどになると言われ、僧侶の数も少なくとも六百―七百名以上と推定されよう。僧王派が、数の上で長老派を圧倒している。

長老派の中心寺院は、ダッカにある唯一の仏教寺院タルマジカ寺(Dharmajika Buddhist Monastery)である。一九五〇年にはBangladesh Bouddha Kristi Prachar Sanghaの本部を置いて活動している。しかしダッカの周辺には、仏教徒は少なく、この寺の信者の多くは、実はチッタゴンに住しているのである。

バングラディッシュ仏教の多数を占める僧王派の中心寺院はチッタゴン寺(Chittagong Buddhist Monastery)である。ここには一八八七年に発足したチッタゴン仏教会が今はバングラディッシュ仏教会(Bangladesh Buddhist Association)と改称している。バングラディッシュ仏教最古の宗教的文化的にして社会的な福祉組織である。首都から離れているため、国際的に知られることが少ないが、事実上、バングラディッシュの仏教を代表する実力を有する寺院であり組織である。――筆者はバングラディッシュ仏教会の、十人ほどのPatronの一人に推挙されているので、付記しておきたい。

仏教聖典を生活に活かす会

仏教聖典をホテルの客室へ——という聖典寄贈運動でおなじみの財団法人仏教伝道協会（沼田恵範会長）。その伝道センタービルを会場に、ユニークな女性だけのグループが発足した。去る六月から活動し始めた「仏教聖典を生活に活かす会」がそれだ。毎月第三木



曜日に開かれている例会に、さっそくおじゃましてみた。

会場は、約八〇人という女性参加者で華やいだムードがただよっている。四〇代の主婦が中心、学生や初老の婦人の姿もちらほらみえる。例会はまず花山勝友武蔵野女子大教授の講話で始まる。仏教聖典を一頁一頁追っていくていねいなもので、この日は釈尊の初転法輪が主テーマだった。参加者は熱心に聞き入っていたが、ここまでは、こ

く一般の仏教講演会とかわりない。一時間近く話を聞いた後、十人位ずつ



グループに分かれて話し合い

のグループに分かれての話し合いが始まる。和室で車座になって、まずお茶を一杯。参加者の心をリラックスさせようという配慮か。最初は、各グループの世話人が話をリードする、簡単な自己紹介、世間話……。グループによって、すぐ打ちとけてにぎやかになる所、静かなままの所と、様々だ。

あるグループでは、世話人が「あなたは健康ですか」と一人ひとりに問うことから話し合いが始まった。この年代の女性にとつて、もっとも関心ある話題なのかもしれない。

「私はこれまで、ヨガとか座禅などをやってきたのですが、なかなか健康になれなくて。でも、体を丈夫にするには、まず心が大切だと思えてきました……」話は、心の健康とは何か、という問題に移っていく。

この仏教伝道協会は、三豊製作所会長・沼田恵範氏が発願して創られた。仏教普及のため、日本国内はもちろん、世界各地のホテル客室に仏教聖典を備えるべく寄贈運動を続け、この二十二年間で百万冊を突破しているという。最近ではホテルだけでなく、刑務所、社会福祉施設、病院、客船、図書館等、きわめて広い範囲へ贈られている。愛知学院大や大谷大等、



各国へ寄贈される仏教聖典

卒業記念に仏教聖典を出す大学も増えてきた。話し合いの方は、だんだん真剣さを増していく。

「私は心臓が悪くて、夜寝ると、翌朝起きられるかどうかかわからないんですよ」と、上品な初老の婦人。「それなのに、子供たちは別居がいいって。この年まで何のために苦労してきたのか、わかりません」

愚痴と聞いてしまえばそれまでだがそこには、人生の黄昏れを迎えようという一女性の切実な悩みがみえるようだ。一見豊かな都会生活を営む中年の婦人層。カルチャーセンターや教養講座では満たされない何かを求め、集まってくる。心を割って話せる場が少ないせいだろうか。

約一時間の話し合い後、再びホールへ集合して質疑応答。話し合いの中から出た具体的問題について、花山講師が仏教聖典に則して答える。かなり深刻な質問にも、身ぶり手ぶりを交えたユーモアたっぷりな応答、会場から思わず笑い声がこぼれる。

仏教聖典は現在、英語の他、フランス語、中国語、ポルトガル語、ネパール語、インドネシア語等にも翻訳され各国への寄贈が続けられている。今後たまたま宿泊したホテルで聖典を見つけ、それが縁となり仏教に遇う人たちが、どんどん増えるのではないか。

ルンビニー委員会

中村立正大教授が説明

第三回ルンビニー復興日本仏教徒委員会は、九月二十九日午後二時から明照会館会議室で開催された。安本国際文化局長挨拶の後、三宅副委員長を座長に議事を開始。まずこの日特別に出席した、中村瑞隆立正大教授（考古学）から、聖なる園付近の細かい様子及び発掘の見通し等の説明を受けた。

つづいて「復興すべき具体的協力内容について」の討議に入り、聖なる園の復興をするのが望ましいが、現状では建物の建設が不可能なので、一定額の指定寄

付を行い、それを後世に知らしめるための記念碑又は塔を建てるべきであるということになった。

又、ネパール国内のインフレ等により物価の変動が激しいため、もう少し時間をかけて資料を集め、検討しながら具体的な指定寄付金額を決めていくことになった。

出席者（順不同敬称略） 稲田稔界、那須徹夫、岩崎宗秀、江連俊則、森田禪朗、中山富士、貝山宣泰、英良智、加藤海晃、小峰一允、樹谷淳宣、三宅心戒。

第二回の税務委員会

第二回税務委員会は、九月十八日午後一時から明照会館会議室で開催された。

同和推進のために

⑦

同和委員会委員長 橘了法

糾弾をうけて漸く差別教団であったことの反省のうえに、「僧侶、寺及び門徒は、つねに教法を聞信し、同和問題に関する正しい認識に基づき、その事業の推進に努め、もって同信同朋の実を挙げなければならぬ」という教化条例をもつに至った宗派がある。御同朋、御同行という宗旨からいつて至極当り前のことである。

その至極当り前のことが幾百年当り前になつていかなかったところに糾弾をうけたのであり、糾弾によって本源に立ち帰えらされて右の教化条例となつたのであるが、それはいうところの建て前に帰つただけで本音のところは、まだどろどろした日本人の土着意識に停滞している。

最近、次のような事例があつたという。

まず豊田総務局長が挨拶、神野副委員長を議長に議事を開始した。

①税務委員会に関する規定（仮称）の検討

磯山時局対策部長から案を説明。討議の後、理事会へ提示することになった。

②自民党政務調査会税制委員会に対する要望書の内容検討

磯山部長から草案説明。討議の後、要望書を自民党政務調査会へ提出することになった。

出席者（順不同、敬称略） 広井正保、中村義英、栗津秀雄、新井智清、北川智城、藤原正秀、大多喜義忍、畑直孝、河野亮永、加藤康照、中野教広、神野真一、花木義光、羽生雅則、長谷川正浩。

三〇の各教区ごとに同和協議会が設けられているが、ある教区の協議会委員に選出された任職に対し、所属寺の檀家総代が、その委員を辞めてほしいと申し入れた。

国民的課題であることは知っているが、僧分は法を語り伝えていただくだけで、生々しい娑婆のことには触れてくれるなというのである。

そうなるとその派の教化条例はどうなる。任職のたたかいはこれから始まる。

教区協議会はこれを教区の課題として、じっくり取り組む方針が立てられた。

宗教界には最もゆかりの深い菩提樹と蓮の花を育ててみませんか!!

成道ゆかりの樹……菩提樹（印度ブツガヤ産直輸入品） 苗代¥10,000（鉢付）

極楽浄土の華……蓮（チャワンバス通称姫蓮） 苗代¥7,000（鉢付）

上記の品二点を同時予約注文の場合 特別価格¥15,000

お申込、お問合せは下記のいずれかの所へ御一報下さい！

東京池袋 西武不動産(株)園芸営業所 ☎(03)989-2755
〒171 東京都豊島区南池袋1の16の15(西武鉄道ビル)

名古屋 資梅金商店 ☎(052)241-0901(代)
(有)かたばみ商事

〒460 名古屋市中区大通三丁目39番33号



法律無料相談室

今月から全仏で
毎月第二
第四火曜

全日本仏教会では、各寺院が抱える法律的問題について、気軽に相談できる

よう、今月から、法律無料相談室を開設

することにいたしました。相談内容につき

ましては、秘密を厳守致しますので、御

遠慮なく御相談下さい。

また、御寺院だけでなく、檀信徒の方

の御相談もお受け致します。

午後一時～四時

場 所 全日本仏教会事務総局
港区芝公園四一七―四

相談方法 面談・書面・電話
〇三―四三七―九二七五

ただし、面談の場合は前
もって御連絡下さい。

もって御連絡下さい。

相談内容

①寺院の設立、合併、規則変更、不動産取引等に関する諸問題

②寺院の収益事業や幼稚園経営における税務等に関する諸問題

日 時 毎月第二・第四火曜日

担 当 全仏顧問弁護士

長谷川 正浩氏

表紙の写真

千体荒神祭

(東京・海雲寺)

江戸時代中期から、かまどの守護をつかさどる荒神さまのお祭りとして、多数の参詣者を集めていた。また、たび重なる火災にも、海雲寺だけが焼けなかったところから、火防の神さまとしても有名だった。

信者の家庭には、靈験をあらわす荒

神さまの分身が、小さなお厨子などに入れられ、分け与えられている。お祭りの当日は、皆、その分身を持って寺へ集まり、護摩の供養を受け、また持ち帰るといふ習慣が長い間、続いていた。

お祭りは、春秋の二回、約五万人という参詣者を集め、にぎやかに行われ、早朝から夕方まで護摩の火が絶えることがない。

今年も、十一月の二十七、二十八の両日、行われる。

今年も、十一月の二十七、二十八の両日、行われる。

事務総局録事(十月)

三日 理事会、評議員会
六日 韓仏仏教宗団協議会来訪局内会議

十二日 大阪府仏教徒会議

十三日 日蓮宗遠忌大法要参列

十五日 埼玉県仏教徒会議

財務担当者会議(関西)

十六日 局内会議

十九日 大会幹事会

二十日 尼僧法団三十周年記念式出席

二十一日 長野県仏教徒会議

川崎大師五重塔上棟式出席

財務担当者会議(関東)

局内会議

二十三日 日宗連理事會

二十四日 都道府県仏教会代表者会議

二十六日 第二十八回全日本仏教徒会議

静岡県仏教徒会議

二十八日 税務委員会

三十日 新宗連三十周年祝賀会出席

昭和57年版

全仏手帳

申込み受付中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。

内容 三冊依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録

忌日早見表、その他

サイズ 9×14cm

定価 五五〇円(送料実費)

申込先 東京都港区芝公園四一七―四 全仏総務局

「全仏手帳係」宛

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

昭和五十六年 十一月一日発行
十一月号 第二七三号

発行人 日野照護
編集人 安本利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七―四
電話〇三(四三七)九二七五